# 「マナビィといっしょにおつかいすごろく」 **ワークショッププラン例**

## ◇概 要◇

実 施 日	2.4年 1月 7日(土) 1.1時00分~1.1時4.5分		
会 場	横浜市内の商業施設		
講座対象者	小学生とその保護者		
予定受講者数	<b>数</b> 10組20名程度		
講 座 名	ゲームで学ぼう!お金の使い方 — 机上ですごろくバージョン —		
目的	<ul><li>(1)物を選択し、お金と交換するという消費活動の基本的な形を学ぶ。(子)</li><li>(2)必要なものとほしいものを予算の範囲内で購入するという習慣を身につける。(子)</li><li>(3)消費活動にとって必要な事項を理解し身につける。(子)</li><li>(4)すごろくを通して子どもの行動を把握し、家庭での実践に活かす。(保護者)</li></ul>		
留 意 点	参加者は事前登録による。		

### ◇当日のタイムスケジュール◇

時間配分	内 容	留 意 点	用意するもの
準備	・すごろく、ワークシートを あらかじめ机に配付しない。 脇に用意。 ・親子2組ずつ(4、5名) で一つの机に座ってもらう。		す ごろく 一 式 、 ワ ー ク シート、筆記用具
導入			
11:00~11:05	だ等)	(講師) ホワイトボードに貼り付けたすごろくを指しながら、説明。 (講師) おつかいのルールをパワポ資料を指しながら説明。 (講師) 最後に、ルールを理解したかどうかとさせ、確認する。 (講師) できる限り親にもすごろくに参加してもらうよう促す。 (事務・すごろくの事務、すごろくのたられに配る。	く(掲示用)、パワポ資料 すごろく一式、ワーク
展開			
N= 511 15	・おつかいで何を買うか考え る。	(講師) ワークシートに買い物計画を記入させる。 (講師) 見回りながら、適宜フォロー。	ワークシート、筆記用具

	・すごろくの遊び方の確認。	(講師) すごろくを始める前に、遊び 方を確認する。	
		(講師)低学年児童のために、計算方 法を確認する。	
11:15~11:35	・各机ですごろくをやる。	(保護者)適宜子どもの手助けをして もよいが、買うか買わないかの判断は 子どもに任せるようにさせる。	
		(講師・事務・アシスタント) ゲーム の進め方について、参加者がとまどっ ていたりしたら、適宜フォロー。	
まとめ			
11:35~11:45	・ほしいお菓子はきちんと買 えたか聞く。	(講師) 一番早くゴールした子や最後 にゴールした子などまんべんなく聞 く。	
		(講師) 欲しいものが買えたかどうか を尋ねながら、必ずしも欲しいもの全 てが買える訳ではないことを伝える。	
		(講師)上手に買い物するコツを伝え る。(あらかじめお菓子分のお金は分 けておくとか)	
		(講師) 保護者に対するアドバイスも 盛り込む。	
	・アンケート	(事務・アシスタント)アンケート配 付	アンケート、筆記用具、 回収箱、おみやげ(お小 遣い帳)
		(事務・アシスタント) 回収して、退 場させる。	
		(事務・アシスタント) おみやげにお 小遣い帳を配る。	

#### 平成23年度文部科学省消費者教育推進委員会委員名簿

#### 【消費者教育推進委員会】

阿 南 久 全国消費者団体連絡会事務局長

上 村 協 子 東京家政学院大学家政学部長

武 田 岳 彦 社団法人日本PTA全国協議会副会長

富 岡 秀 夫 財団法人消費者教育支援センター専務理事

◎西 村 隆 男 横浜国立大学教育人間科学部教授

萩 原 なつ子 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授

早 川 三根夫 岐阜県教育委員会事務局義務教育総括監

長谷川 秀 司 消費者庁消費生活情報課長

#### 【家庭教育部会】

荒 木 武 文 神戸市市民参画推進局市民生活部消費生活課長

あんびる えつこ 子供のお金教育を考える会代表

柿 野 成 美 財団法人消費者教育支援センター主任研究員

須 黒 真寿美 社団法人全国消費生活相談員協会消費生活専門相談員

○萩 原 なつ子 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授

早 川 三根夫 岐阜県教育委員会事務局義務教育総括監

◎:委員長 ○:部会長



HP: http://www.mext.go.jp/a\_menu/ikusei/syouhisha/index.htm